

# 多様な学びの場 把握を

不登校に歯止めがかからないことなどを背景に、東京学芸大（東京都小金井市）がフリースクールなど学校以外の教育現場の現状について教える科目「多様な学びと子ども支援」を新設した。4月の開講を前に、責任教授の加瀬進さん（同大特別支援科学講座）に狙いを聞いた。

東京学芸大

加瀬 進教授に聞く

「子どもが不登校になった場  
合、本人がまずどうしたいの  
か、その子にとって何が最善か  
を考えると、本人がまずどうしたいの  
な選択肢があるのかを学校が正  
確に把握していなければ、適切

3千人、高校中退者は約5万3千人に上る。学校に通えない子どもの支援は近年、ますます重要になっていく。だが、現状では体制が十分とはいえず、「学校に復帰させることが最善」と考え、フリースクールなどに偏見を持つ教師も少なくないという。

不登校の中には「学校がしんどい」という児童、生徒だけではなく、「もっと違った学びをしたい」と感じている子どももいる。

## 「最善」考え指導必要



な指導は難しくなる」  
2014年度の調査による  
と、不登校の小中学生は約14万

る。  
「指導側の視野が狭いと、本人が望むような場所につなぐこ

「公教育の軽視につながる」という意見も根強いが、加瀬教授は「賛否を超え、まず現状を知ること」に意義がある」と強調する。

原則としてソーシャルワーカーを志望する学生向けの科目だが、加瀬教授は「教員を目指す学生にも、ぜひ履修してもらいたい」と話す。「専門スタッフと教員とが一緒になって問題に取り組み『チーム学校』を実現するためにも、学生時代からの連携が望ましい」



かせ・すすむ 1960年東京生まれ。87年東京学芸大大学院修了。京都教育大勤務を経て、2010年から東京学芸大教授。



「フリースクール東京シュレ  
王予」のフリースペース（東京  
都北区